

第5回えひめ福祉博2014 結果報告書

えひめ福祉博も皆様の御支援、御協力のおかげで5回目を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。9月6日（土）、7日（日）に愛媛銀行研修所様にて開催させて頂き、多くの方が来場されて、楽しく笑顔で勉強して頂きました。事故や怪我もなく無事に終了致しましたことを、御報告させて頂きますと共に、関係者皆様へは熱く御礼を述べさせて頂きます。

この福祉博も、愛媛県内外より約60社程の御出展があり、6日は689人、7日は413人、合計して1102人の御来場がありました。目標としました来場者数には残念ながら達しませんでした。多くの方が熱心にスタッフの方に話を聞かれたり、色々な体験コーナーにチャレンジされたり、初めて福祉用具にさわられたりして、見て：聞いて：触れての予定通り、また以前に増しての内容の濃いものとなりました。来場者からのお声としてアンケートを御記入頂いた（記入枚数300枚）内容より少し抜粋いたしますと、「非常に勉強になった、参考になった、スタッフの方の対応が良かった：丁寧に教えてくれた、体感出来て良かった、本当に楽しかった、色々と工夫されてて驚いた、最新の福祉用具が見られ感動したなどなど、

また返って1年に1回と言わずもっと回数を増やして欲しい、もっと福祉用具の種類が見たい、排泄特に紙オムツや簡易トイレ等があったら良かった、もっと出展社の方とゆっくりと話がしたかった、価格について相談したかった、行政の方のブースも出して欲しい特に介護保険、会場内に車椅子対応のトイレがあれば良かった」等の意見があり今後の検討としていきたい。また来場者の内訳はアンケートを基準にして松山市を中心にやはり中予地区が多く、次に東予地区の方が四国中央市を含め去年よりかなり増え、南予の方はかなり減った。また年代層は40代からが圧倒的に多く、残念ながら今回は高校生、大学生の姿が見当たらなかった。このような結果としては、今回のテーマが「自分らしく生きる：これからの住まいと介護を考える」としたため来場者層が特定されたのかもしれない。自分達の今の現実を含め将来のことを考えていきたいと思われている方が多かったのではと推測する。そのことを思うと短絡的に来場者の数だけを追っかけるイベントとしてではなく今後の愛媛・日本の少子・高齢化を考えるとまさに、このような現実を直視し将来を見据えた福祉：介護のイベントが益々必要というより、不可欠になるのではないかと？民間が単独でするより行政とひとつになって運営

して、このイベントの輪を「和」として全国に広がればと願います。
みんなが助け合い、声を掛け合い昭和の元気があった時代にまた戻り、そして誰もが安心して暮らし、笑顔で長生き出来る時代がくることも近いと信じております。えひめライフサポート協会のスローガンとして「愛媛の元気は自分達の出来るところから始めよう」を掲げております。これは各自、個人差があります、一人一人が無理をせず出来るところからスタートして、出来る人が出来ない人をサポートしてみんなが手をつないでいっしょに、最後にゴールしましょうという思いでつくりました。今回で5回目となりました福祉博もその思いを愛媛県の皆様に託しました。そして今年も多くの方々が来場され、私達も多くの元気と笑顔をもらいました。率直に本当に、ありがとうの一言に尽きます。

ここにおいて改めて、来場者の方、関係者の方またサポート頂いた皆様に深く、深く感謝致します。またこの5年間本当にお世話になりました、本当にありがとうございました。

平成 26 年 9 月 17 日